

水曜通信 1

東北学院大学 私立大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2017年
4月

水曜礼拝(公開大学礼拝)のご案内 第2水曜日 18:30-19:00

土樋キャンパスでの大学礼拝はラーハウザー記念東北学院礼拝堂(1932年献堂)で、学生のために授業期間の間、毎日20分行われています。しかし公開クリスマス以外に、市民が参加可能な礼拝はありませんでした。礼拝堂は、建築もステンドグラスもそしてネオバロックのパイプオルガンによる音楽と礼拝も、もっと市民に親しんでいただく価値があります。それで第2水曜の夜の礼拝を公開することにしました。

それにあわせて、この「水曜通信」も毎月一度、文科省の私立大学研究ブランディング事業の進捗状況の報告やお知らせも兼ねて発刊します。東北学院と市民の皆様との繋がりの一助としてご利用いただけますように。



1932年献堂時のラーハウザー記念東北学院礼拝堂



ヒートン・バトラー&バイン工房作
『昇天』ステンドグラス、1932年

水曜礼拝は次のように進行します。

前奏（座っています）→讃美歌（立って歌います）→聖書朗読（座ります）
→講話（座ったままです）→頌栄（立って歌います）→後奏（座ります）

4月12日（水曜日）は、讃美歌：38番 頌栄：539番

聖書：『マタイによる福音書』5章13節～16節

講話：鐸木道剛 「地の塩：大学礼拝の市民への公開」

奏楽：小野なおみ

■ 枠飾りについて

シナイ山聖カタリナ修道院所蔵の
典礼用福音書の「パントクラトルの
キリスト」像の縁飾りを借用しまし
た。

Sinai Codex Theodosianus (cod.204)

1000年頃制作

31.9×24.1cm

813年、最終的にイコノクラスム（聖
像破壊）を克服して、マケドニア朝
になるとビザンティン美術は最盛期
を迎えます。この写本挿絵はマケド
ニア朝美術最良なもの。



■ 文科省私立大学研究ブランディング事業とは

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

■ 礼拝堂について

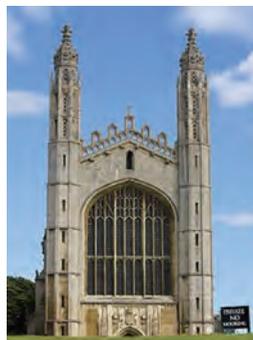
ラーハウザー記念東北学院礼拝堂は、昭和7（1932）年3月に土樋キャンパスに献堂されました。J. H.モルガン（米国）の設計によるカレッジ・ゴシック（Collegiate Gothic）様式の礼拝堂です。収容人員は900名で、外壁に地元秋保産の石が使われています。シュネーダー第二代院長の米国における募金活動に賛同して献金を寄せたエラ・ラーハウザー嬢の名前がつけられています。カレッジ・ゴシック様式とは、主にアメリカとカナダで大学と高等教育の建築に使われたもので、とくにイギリスのチューダー（Tudor）様式から来ています。チューダー様式とはもちろんチューダー王朝の時代（1485-1603年）に由来する建築様式で、チューダー・アーチと呼ばれる幅広で平たい尖頭アーチを特徴とします。2014年12月19日、国の有形文化財に登録されました。



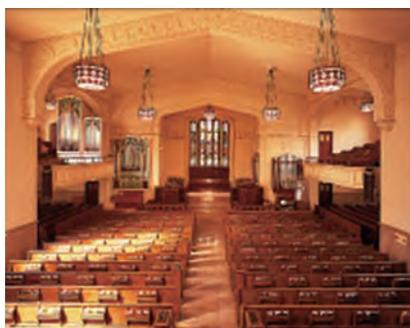
東北学院ラーハウザー記念礼拝堂
1932年献堂



Gloucester Cathedral
1089～1499年建築



King's College Chapel, Cambridge
1446～1515年建築



■ パイプオルガンについて

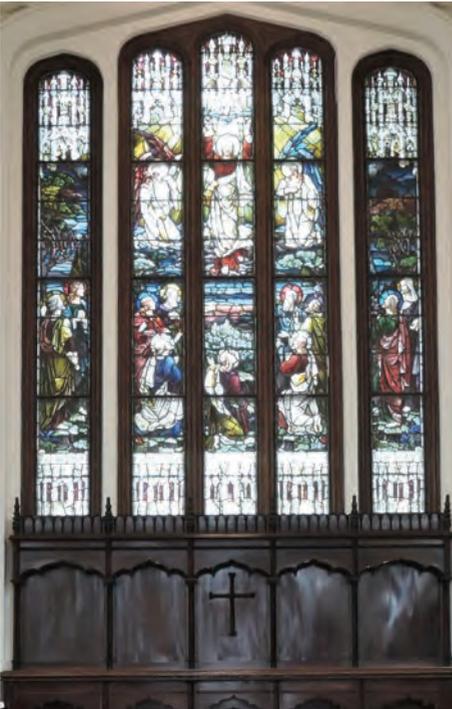
講壇向かって右側に、当時北日本唯一のパイプオルガンとして活躍した米国モロー社の楽器がその形のみをとどめています。現在使われているオルガンは、講壇の左側とバルコニーの一角を使い、昭和53（1978）年12月に配置されました。ドイツ（ハンブルク）のベッケラート社によるネオ・バロックスタイルの楽器です。

演奏台正面の最も小さいケースにブルストヴェルク、これを囲み立つフロントパイプ（プリンシパル8）の後方にハウプトヴェルク、木の鎧戸を境にして更にその奥にシュヴェルヴェルクのパイプを取めてあり、バルコニー上で連結された二つのケース内はすべて足鍵盤用です。

■ステンドグラスについて

このステンドグラスは、英国のヒートン・バトラー&バイン (Heaton Butler & Bayne、以下HBB) 工房で制作されたもので、当時日本には3カ所にあったといえます。しかし東北学院の一年前1931年に設置された横浜クライスト・チャーチ(横浜山手聖公会)の作品は1945年に焼失。もう1カ所の作品は神戸にあって、おそらく民間の邸宅に設置されたもので現存しません。つまり日本国内に当時のステンドグラスとして現存しているのは東北学院の礼拝堂のみということが判明しました。

HBB工房はヴィクトリア朝ロンドンでゴシック・リバイバルの指導的な工房でした。本学院のシュネーダー院長が横浜のアメリカ人建築家モルガンに設計を依頼し、横浜のシングルトン商会を通じてHBB工房に注文をだしました。そのときの注文内容確認の手紙が残っています。天使の数を減らして、キリストを目立たせるようにとの指示がされています。中央にエルサレムが強調されて描かれています。ここに「仙台をエルサレムに！」との考えがあるのかもしれない。



ステンドグラス左下の銘文
Heaton Butler & Bayne
そして London とある。

2016年 11月 5日開催の講演会

11月5日に開催された講演会には本学院のステンドグラスを調査・鑑定した専門家からの報告が行われるとあって、140名という多くの聴衆が礼拝堂に集いました。

松本宣郎学長の挨拶のあと、最初に、光ステンド工房代表の平山健雄氏は、ステンドグラスの作り方やその起源などの歴史的背景にふれながら「これほど奥行き感のあるステンドグラスはとても珍しく、絵付け職人がパーツ毎に制作し、キリストと天使たちの衣は同じ黄色でも異なる色で表現され、手足の指の描写もとても繊細です」と解説しました。

続いて、本学文学部の鐸木道剛教授が、ヒートン・バトラー・アンド・バイン工房であることを確認した経緯を紹介し、さらに1931年にステンドグラスを発注した際に交わされた書簡などについて解説するとともに、プロテスタントにおける中世復興であるこのステンドグラスが、神学復興のオクスフォード運動、美術ではアーツ・アンド・クラフツ運動から日本の民芸運動、ラファエル前派からナザレ派、さらにはジャポニズムまでの様々な研究のきっかけになることを示しました。





130 東北学院創立130周年記念講演会
キリスト教文化研究所 第57回学術講演会

ラーハウザー記念礼拝堂の「昇天」ステンドグラス

イギリスにおける中世美術復興

講師	日時 平成28年 11月5日(土) 13:30~17:00
平山 健雄 氏 (ひらやま たけお) 光ステンド工房代表	会場 東北学院大学土橋キャンパス ラーハウザー記念 東北学院礼拝堂
時を超えた光のメッセージ ステンドグラス	参加無料 <small>●東北学院大学 関係者以外にお申し込みの方は、 聴講料として1,500円（税込）の申請が必要となります。 ●聴講料は聴講のみのため、聴講費を申請しなくても可。</small>
鐸木 道剛 氏 (つるぎ みちつら) 東北学院大学教授	主催 学校法人 東北学院 共催 東北学院大学 キリスト教文化研究所
東北学院の象徴としての 意味の拡がり	
申込 番 022-264-6401 東北学院大学	

問合せ先 **学校法人 東北学院 庶務部庶務課** 電話 022-264-6464
東北学院大学 研究機関事務課 電話 022-264-6401
〒981-8501 仙台市青葉区土橋一丁目31-1

2017年 2月のイギリス調査報告

平成29年2月22日から3月5日まで、本学文学部の鐸木道剛教授と吉田新講師、そして広報部長の内海陸夫氏が、横浜のステンドグラス工房主宰の平山健雄氏の案内のもと、イギリスの19世紀ステンドグラスの現地調査を行いました。調査では、本学のステンドグラスを制作したヒートン・バトラー&バイン工房（以下、HBB工房）の位置づけを確認するために、19世紀ステンドグラスの大まかな状況を各地で調査し、また現在の19世紀ステンドグラスの研究の中心的役割を果たしているリンカーン大学のJim Cheshire准教授、イーリー博物館のJasmine Allen学芸員から現在の研究状況について情報提供を受けました。またポーランドのグダンスク工科大学のWaldemar Affelt講師からも建築修復について情報提供を受けました。



リンカーン大聖堂にて 2月24日 Jim Cheshireさんと



イーリー大聖堂ステンドグラス博物館にて
2月25日 Jasmine Allenさんと



HBB工房作ステンドグラス 1898年
ハリス・マンチェスター・カレッジ図書館 オクスフォード
肖像写真をもとにした個人の記憶のためのステンドグラス

ピーターバラ大聖堂のHBB工房作ステンドグラス
「ゲッセマネのキリスト、右にユダの裏切り」1864年



2017年3月18日開催のシンポジウム

松本宣郎学長の挨拶に続いて、まず学習院大学の高橋裕子教授によるヴィクトリア朝美術の概説がありました。

次にJim Cheshire准教授は、19世紀イギリスのステンドグラスと中世復興について、社会的状況などを紹介し、さらに19世紀に復興したステンドグラスは、写真に基づく肖像画を描き込むなど、あくまで近代の人間中心主義の産物であることを指摘されました。



そして来日直前にロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 (Victoria and Albert Museum) で発見したヒートン・バトラー&バイン工房のステンドグラスの1932年のカタログ (商品見本) を紹介されました。

前半部の最後、東北学院大学の鐸木道剛教授は中世芸術における無名性の価値について解説し、自己の内面の表出としての芸術の観念の限界を示しました。休憩を挟み、清泉女子大学の高野禎子教授は、フランスを中心にしたゴシックのステンドグラスの作品を紹介されました。

最後に九州大学の谷隆一郎名誉教授は、神学的典拠についてのコメントを加えられ、現代にも関わる中世復興の意味について議論しました。

東北学院大学 私立大学研究ブランディング事業シンポジウム



東北学院のステンドグラス

19世紀の中世復興と物質文化

Stained Glass in Tohoku-Gakuin -19th century Medievalism and Material Culture-

1932年設立のブローカー記念東北学院礼拝堂はネオ・ゴシック様式である。ステンドグラスはヴィクトリア朝ロンドンの代表的なヒートン・バトラー&バイン工房の製作である。プロダクトの発祥地にも90年経たないがゴシック音楽の復興と美術が作られることになったのか？2017年の東日本震災によって東北は未曾有の惨害を経験した。いざいざと19世紀イギリスの中世復興をめぐって物質文化について考える。

The chapel at Tohoku-Gakuin is in the Neo-Gothic style with a stained glass window made by a studio that became famous in Victorian London. By considering the role of medievalism and within a Protestant framework, this conference will, therefore, explore the relationship between medievalism and material culture and reflect on its significance in the context of the unprecedented material destruction caused by the Tohoku in 2011.

2017年3月18日(土) 13:00~17:30 申込不要 入場無料

東北学院大学 土樋キャンパス 押川記念ホール

プログラム

講師

高橋裕子 (学習院大学) 【前置き：ヴィクトリア朝美術とは】
 Jim Cheshire (准教授、リンドン・アンド・アルバート博物館) 【中世復興と19世紀イギリスのステンドグラス】
 Medievalism and Stained Glass in Nineteenth-Century Britain
 鐸木道剛 (東北学院大学) 【オリジナリティとコピー：中世の価値】

コメンテーター

高野禎子 (清泉女子大学教授) 【ゴシックのステンドグラス：実例より】
 谷隆一郎 (九州大学名誉教授) 【東方教父とビザンティンの思想伝承をめぐって：その歴史的意味】

主催
 東北学院大学 私立大学研究ブランディング事業

お問い合わせ
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
 東北学院大学 私学研究ブランディング事業部
 Tel:022-2664-6405
 E-mail: branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp



中央図書館新資料

研究ブランディング事業は、中世神学研究に必要なMansi編集の公会議記録(Sacrorum Conciliorum Nova et Amplissima Collectio, 1758-98) 全59冊のリプリント版、フランス語と古典語の対訳のキリスト教文献叢書(Sources Chrétienne)の欠号、また19世紀イギリスのゴシック美術についての研究書2冊を平成28年度に購入し、研究基盤の整備の一助としました。

また中央図書館は研究ブランディング事業と関連付けて、ジョン・マーティン(John Martin 1789-1854)の旧約聖書主題のメゾチント版20点(1838年)、18世紀オランダのクリストフ・ヴァイゲル(Christoph Weigel the Elder 1654-1725)出版の絵解き聖書(1712年)を購入しました。ともに今後、神学に基づく人文学研究の拠点としての東北学院の所蔵本として重要な資料となるものです。



ヴァイゲル絵解き聖書
1712年
旧約聖書「樂園追放」



ジョン・マーティン旧約聖書版画 1838年「墮罪」



東北学院大学

私立大学研究ブランディング事業通信 第1号

2017年3月31日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL : 022-264-6405

E-mail : branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL : <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/>